

6-1 歴史・文化・伝統の継承

現状・課題

○能美市の文化財

- かつて加賀国の中心であった能美地域は、全国的にみても文化財の多い地域であり、その数は137件となっています（2016年4月現在で国指定5件、県指定3件、市指定129件）。これらの貴重な文化財を広く市民に普及し、保存・継承していく必要があります。

○能美古墳群の保存と活用

- 能美古墳群は、1971年度から継続して保存整備事業が行われており、2010年度には秋常山古墳群の整備が完了し、現在西山古墳群の整備が進められています。史跡などの文化財は地域住民に親しまれ、愛護されてこそ後世に受け継がれるものです。今後は、保存整備された古墳群を活用していく環境づくりが必要になります。

○歴史文化資源を活かしたふるさと学習の実践

- 行政区域や生活圏の拡大、生活スタイルの多様化、また、情報化や国際化が進展し、ふるさと愛が希薄になっているのが現状です。こうした中、全国各地でふるさとを見直す動きが芽生えています。本市においても、学校や地域との連携を深めながら、ふるさと学習を実践し、ふるさと愛の醸成に努めていく必要があります。

○郷土芸能の保存・継承

- 現在、本市では、15団体が郷土芸能保存団体に加盟し、伝統芸能の保存に力を注いでいます。しかし、獅子舞やみこしの担ぎ手などが減少し、これまで各地域で守られてきた伝統芸能が消滅の危機にあります。今後、郷土芸能の保存・継承に努めることが望まれます。

Voice ~市民の声~

▼市民満足度調査（2015年）より

- 既存の歴史や文化や伝統への取り組みは満足している。

▼市民意向調査（2014年）より

- 古墳や里山などを大切にしている。
- 和田山・末寺山古墳群など、自然豊かな公園も整備されている。

【秋常山古墳群】



施策の展開方針

目標

能美市が誇るふるさとの歴史・文化・伝統の継承

①歴史・文化資源の保護・整備

- 歴史・文化・伝統の継承のために、文化財などの愛護普及事業を推進します。また、能美古墳群の保全事業を進め、歴史教育の拠点となるように、活用の推進を図ります。

<主な取り組み>

- 文化財の調査・研究・保存
- 文化財説明板の設置
- 市民と連携した維持管理の推進
- 西山古墳群の保存整備
- 能美古墳群の再整備（案内板や遊歩道などの整備）

②ふるさと学習の推進

- 能美の歴史・文化・伝統に関する講座の開設や、ボランティアガイドの養成・育成を図り、史跡や博物館を訪れる人々の歴史学習ニーズに応えるための施策を推進します。

＜主な取り組み＞

- 文化財を活用した小中学校での歴史学習の実施
- ボランティアガイドの養成・育成
- 古代体験の推進

③郷土芸能の保存・継承

- 市の貴重な財産である各地域の伝統芸能の保存・継承に向けた施策を推進します。

＜主な取り組み＞

- 伝統文化・芸能継承団体に対する支援

④市史編纂の体制づくり

- 市史編纂に向けた基本構想ならびに基本計画を策定するとともに、市史に掲載する各種資料の収集活動を推進します。

＜主な取り組み＞

- 基本構想・基本計画の策定
- 市史編纂に必要な資料の収集

⑤ふるさと愛の醸成

- 市の文化資源を活用した、学びの拠点づくりを推進します。地域の魅力や伝統を知ること、ふるさと愛を育みます。

＜主な取り組み＞

- 博物館の整備とふるさと学習機会の充実
- 古墳まつりの開催

目標指標

指標	考え方	単位	目標値		
			現況値 2016年	2021年	2026年
博物館・歴史民俗資料館の入館者数 【出典：歴史民俗資料館資料】	○来館し、地域の魅力や伝統に触れることでふるさと愛を育む。	人／年	15,500	20,000	21,000
ふるさとボランティアガイドの認定者数 【出典：歴史民俗資料館資料】	○能美の歴史を伝えるボランティアガイドの養成・増員を図ることにより、市民のふるさと学習を推進するとともに、観光の魅力向上を図る。	人	15	20	30

【関連する主な個別計画】 教育施策の大綱（2017年度）

6-2 里山・自然環境の保全と活用

現状・課題

○本市の豊かで多様な自然

・市内には、コアジサシ、アベサンショウウオ、トミヨ、ホトケドジョウなど、国指定や県指定の希少野生動植物種が生息しています。また、ルリイトトンボ、ギフチョウ、カタクリ、ササユリなど、豊かで多様な自然を象徴する動植物に恵まれており、環境省が指定する「重要里地里山」に「能美の里山」が選ばれています。一方で、近年の気象の変化や外来生物の繁殖による在来種の駆逐など、自然環境が大きく変化してきています。

○自然環境の保全に向けた活動の実施

・1982年に実施した自然環境調査、2002年から10年間実施した市域の生物生息調査を基に、今後も、それぞれの分野の生息状況のモニタリングが必要となってきます。また、希少種の生息地保全、保存会の立ち上げや保全活動への支援が必要となってきています。今後、自然と市民が共生するまちを目指し、自然環境の保全に向けた啓発・教育普及活動を実施する必要があります。

○「能美の里山ファン倶楽部」の活動

・2006年に里山地域の集落が団結し市民団体「能美の里山ファン倶楽部」を組織し、市民協働でのまちづくり活動を展開しています。2010年には活動の功績が認められ、「SATOYAMA イニシアチブ国際パートナーシップ」の創設メンバーに民間任意団体として唯一選ばれました。

○森林・里山を有する地域のコミュニティ

・市内74町会・町内会のうち16町会・町内会が森林・里山を有しており、市域全体の約4割の面積を占めていますが、これら中山間地域では少子高齢化が著しく、高齢（65歳以上）人口比率が40%を超える町会・町内会も多く存在するなど、地域コミュニティの存続が危ぶまれています。

Voice ~市民の声~

▼市民満足度調査（2015年）より

- 今ある自然を残し、守り育ててほしい。
- 素晴らしい自然環境に恵まれた能美市の良さを市民全員が認識して、後世に残したい。

▼市民意向調査（2014年）より

- 能美市が住みよいまちだと思ふ理由として、「自然が豊かだから、空気がきれいだから、田舎だから」が最も多く、14.4%を占めている。（回答数132/919）

▼第4回地方創生フォーラム in 能美参加者アンケート（2016年）より

- 「能美市内に住んでいる子どもたちが、どんな子に育ったら嬉しいですか？」の質問に対し、「自然の大切さを学び感じ取れる子」、「自然と遊ぶ」、「自然を愛する」との回答多数。
- 「『こんな子育て支援があったらいいな』と思うことを教えてください」の質問に対し、「木育」、「農業体験」、「里山を体感できる支援」といった回答があり、自然環境を活かしたいと思っているのは限られた層（高齢者、中山間地在住者）のみではないことがうかがえる。

【能美ほっこりまつり】



施策の展開方針

目標

自然と共生した里山の景観と暮らしの継承

①山川の生態系の保全と生物多様性の確保

●市域の動植物の生息調査実施による現状把握に基づき、希少動植物の生息地保全や特定外来生物の増殖を防ぎ、市民と行政が協働で海山川の自然環境の保全と生物多様性の確保、人の暮らしと共生する豊かな自然環境保全を図ります。

＜主な取り組み＞

- 生物生息調査の実施
- 希少動植物保全団体の育成と連携・支援
- 希少動植物の生息地保全
- 特定外来生物の増殖防止対策

②自然との共生を目指す環境保全活動・学習の推進

- 豊かな自然環境を活かした自然体験、環境保全活動・学習に関する出前講座などを実施し、市民の環境保全に対する認識を高めます。

＜主な取り組み＞

- 市民の環境学習機会の充実（自然体験、出前講座等）
- いしかわ学校版環境 ISO 認定校の拡充

③里山景観と暮らしの維持

- 能美の里山を大切に思う人や企業などが、里山の景観や文化などを「守る・深める・活かす」をキーワードとした活動を展開し、里山コミュニティの維持を図ります。

＜主な取り組み＞

- 里山景勝地・里山散策路の保全と活用
- 里山体験交流施設の利活用
- 里山の景観と暮らしのファンの拡大
- 里山資源を活かした仕事の創出支援 [4-2の再掲]
- まちむら交流活動の実施

目標指標

指標	考え方	単位	現況値	目標値	
			2016年	2021年	2026年
いしかわ学校版環境 ISO 認定校の拡充 【出典：生活環境課資料（実績）】	○全小中学校が「いしかわ学校版環境 ISO」の認定を受け、環境教育を推進することにより、将来にわたり、環境保全活動に関心を持つ児童生徒の育成を図る。	校	4	11	—
まちむら交流活動の市民参加者数 【出典：主催者確認】	○市民参加者の増加を図ることにより、自然環境への理解と自然環境保全に努める市民を増やし、里地・里山の活性化を図る。	人	3,100	3,500	4,000
ふるさと自然監視員数 【出典：博物館資料】	○監視員の増加を図ることにより、希少生物などが生息する各地域の定期的な生物生息調査及び環境調査を実施し、生息環境の保全を図る。	人	8	10	15

【関連する主な個別計画】 教育施策の大綱（2017年度）

6-3 水環境の保全と活用

現状・課題

○豊かな水資源をより身近にする整備が必要

・本市は、手取川をはじめ、西川や熊田川、館谷川、鍋谷川など数多くの河川が流れています。また、宮竹用水などが整備されており、かんがい用水としての機能以外に、親水・防火・消流雪などに活用されています。また、手取川の伏流水である地下水は、飲料水をはじめ、農業用水、工業用水など幅広く利用されており、保全が求められています。

○水災害対策の強化が急務

・集中豪雨などによる水災害を未然に防止し、安全な居住環境を形成するため、迅速な水防活動や危険個所の改修事業の適切な実施が求められています。更に近年、農地減少に伴うたん水能力の低下による浸水や冠水の危険性が増しており、被害を防止するために、関係機関との連携による雨水排水施設や用排水路の整備などを推進し、浸水防止対策を強化していくことが必要となっています。また、土砂災害が発生した場合には、被害を最小限に食い止めるため、迅速かつ適切な対応が求められています。

・海岸の浸食から砂浜を守るため、関係機関に働きかけながら、海岸の保全と自然災害の防止が課題となっています。

○保安林の保護、再生

・白砂青松の景観を後世に継承するために、根上海岸の保安林の再生、松くい虫の被害防止対策を継続して行う必要があります。

Voice ~市民の声~

▼市民満足度調査（2015年）より

- 「水環境を守り、活かす取り組み」は、以前の調査結果から常に高い重要度となっており、水環境の保全活動や水害対策などに対する市民の強い関心が表れている。
- 近年の地下水位低下により、地下水の保全と有効活用に市内企業や市民の強い関心がある。

【根上海岸の保安林再生事業】



施策の展開方針

目標

地下水の保全と浸水・排水対策

①地下水の保全と用水の保全・活用

●国・県・企業などの関係機関と連携し、地下水の保全、水源の確保を図ります。また、用水については、多面的機能の増進と保全・活用を図ります。

＜主な取り組み＞

- 地下水の適正利用
- 水源の把握と適正管理
- 地域用水機能の増進
- 用水の保全と活用（各種イベントの開催や清掃活動等）

②快適な親水空間の保全と創造

●国・県などの関係機関と連携し、市民や関係団体の協働により、河川や海岸などの水環境を大切に作る心の醸成を図ります。

＜主な取り組み＞

- 河川改修に係る景観・護岸整備の促進
- 手取川河川敷の有効活用
- 河川愛護活動の促進
- 河川を活用したイベントの開催
- 水環境に関する学習機会の提供

③ 海岸環境の整備促進

- 国・県などの関係機関と連携し、安全かつ自然豊かで人々が親しみやすい海岸環境整備を図ります。

<主な取り組み>

- 海岸保全と災害防止対策の促進
- 根上北部地区海岸整備の推進

④ 河川・用排水路の改修・整備

- 鍋谷川など主要河川の改修を促進するとともに、用排水路の改修・整備を進めます。

<主な取り組み>

- 鍋谷川などの主要河川の改修促進
- 用排水路の改修・整備

⑤ 浸水・排水対策の充実・強化

- 手取川と西川・熊田川の合流部における樋門などの整備など、集中豪雨による水害を防止する浸水・排水対策の充実・強化を促進します。
- 河川や急傾斜地などの危険個所の適切な改修とともに、土砂災害時の迅速で適切な対応を行います。また、迅速な水防活動により水災害の未然防止を図ります。
- 土地区画整理事業などで整備された調整池の適切な維持管理を行います。

<主な取り組み>

- 西川・熊田川の樋門などの整備促進
- 土砂災害対策の実施
- 水防活動の充実
- 調整池の維持管理

⑥ 保安林の保護・再生

- 根上海岸の保安林の松くい被害の拡大を防止するため、樹幹注入や薬剤散布による防除や、伐倒駆除を継続的に行うとともに、松林の再生を図るボランティア団体を支援します。

<主な取り組み>

- 松くい虫駆除・防除及び松林の再生

目標指標

指標	考え方	単位	現況値			目標値		
			2016年	2021年	2026年	2016年	2021年	2026年
河川愛護活動参加率 【出典：土木課資料】	○市民と行政の協働により、効率的な河川維持体制の構築を目指す。	%	93	93	100			
松くい虫の被害量 【出典：松くい虫の被害推移データ】	○松林への樹幹注入や伐倒駆除といった松くい虫被害の拡大防止策を実施することにより、保安林（松林）の保護を図る。	m ³ /年	37 (2015年)	20	20			

【関連する主な個別計画】 —

6-4 循環型社会と環境美化の推進

現状・課題

○資源回収・ごみ減量化への意識啓発

・本市では、各町会・町内会で毎月1回の資源の日を設け、資源回収を行っており、週末には、リサイクルセンターで資源回収を行っています。また、近年ではスーパーマーケットや量販店でも資源回収が行われています。近年は、剪定枝の直接搬入ごみが多くなっており、1人当たり年間ごみ排出量は、増加傾向にあります。また、今後は事業系ごみの減量、商品の過剰包装に対する意識啓発など、事業所と市民が連携を取ってごみの減量を進める必要があります。根上くるくる工房では、不用品でまだ使えるものをリペア(修理)して販売していますが、数量はまだまだ少ないのが現状です。資源を有効活用するためには今後その事業を拡大し、リペア・リユース(修理・再使用)量を増やす必要があります。

○クリーンエネルギーへの対応

・本市では、家庭の太陽光発電設置などに補助制度を設け、CO₂削減に取り組んでいます。今後は、その他の新エネルギーへの支援を検討する必要があります。

○環境への配慮

・市民が健康な生活を維持していくために、今後のごみ処理やし尿処理など、環境衛生施設の適正な管理運営が必要です。また、工場排水や河川の水質調査、航空機や自動車などの騒音調査を実施し、環境への影響がないか継続的に調査・確認していく必要があります。

○美化活動への意識向上

・毎年1回、海岸清掃・クリーンデーなどの清掃活動を実施し、市内の環境美化に努めています。また、環境ボランティア団体により、市民に対し、エコな活動や取り組みの啓発を行っており、さらなる充実が期待されます。一方、不法投棄やペットの糞被害などに関する苦情は増加しており、環境への意識向上を図る必要があります。

Voice ~市民の声~

▼市民満足度調査(2015年)より

○「ごみ処理」の重要度が高く、満足度も高い施策となっている。

▼市民意向調査(2014年)より

○地球温暖化対策として実践していることは、「ごみと資源の分別の徹底」が83.2%を占め、次いで「マイバッグの持参などごみの削減やリユースの取り組み」が78.0%を占めている。

【よりよい環境づくりの日 根上海岸清掃】



【辰口リサイクルセンター】



施策の展開方針

目標

私たちの生活環境と地球を守るための環境保全活動の推進

①ごみ減量化の推進

●家庭や事業所での「5R運動」を推進するとともに、リサイクルプラザの建設やごみ減量化に関する情報発信を行うことで、本市全体のごみ減量化を目指します。

＜主な取り組み＞

- 家庭(市民、団体)・事業所での5R運動の推進
- リサイクルプラザの建設及び利用促進
- ごみ減量化を推進する情報の発信(スマートフォンアプリの活用、出前講座等)

② 温暖化防止対策の推進

- 地球温暖化の防止となるよう、二酸化炭素排出量の削減に向けて、市民・企業・行政が一体となって低炭素社会の実現に取り組みます。

＜主な取り組み＞

- 環境基本計画の改訂
- 新エネルギーの推進
- エコのみポイント活動の推奨
- 家庭・学校・地域での省エネ実践の支援

③ きれいなまちづくりの推進

- きれいで住みやすい能美市を目指すため、官民一体となって環境美化活動を推進し、豊かな自然環境を持続させていきます。

＜主な取り組み＞

- 市民参加型の美化推進活動の充実
- 不法投棄防止対策の強化
- 公害関連調査の実施（騒音、水質等）
- 環境衛生施設などの適正な管理運営

目標指標

指標	考え方	単位	現況値	目標値	
			2016年	2021年	2026年
1人1日当たりの ごみ排出量（一般家庭） 【出典：美化センターごみ種類別搬入量（家庭系）可燃・不燃・直接搬入の合計】	○市民と行政が一体となってリサイクル活動を促進することにより、ごみ排出量の抑制を図る。	g / 人・日	572	572	570

【関連する主な個別計画】能美市環境基本計画（2009年度）

＜用語の解説＞

- ・5R運動：不要なものを買わない Refuse（リフューズ）、ごみを減らす Reduce（リデュース）、再使用する Reuse（リユース）、修理して使い続ける Repair（リペア）、再び資源として利用する Recycle（リサイクル）の英語の頭文字を表したもので、循環型社会をつくるための基本的な考え方。
- ・クールシェア：夏の暑い日に1人1台のエアコンをやめ、家族で1つの部屋で過ごしたり、公共施設や商業施設など冷房施設のある共有スペースをみんなでシェアしたりする取り組み。